

「国民運動の推進について」（平成 19 年 5 月 25 日 資料 2）

昨日の会議で配布・説明を受けた上記資料について、時間が限られておりましたので、書面で私の意見を述べます。

昨日の会議でも出ておりましたが、折角作られたこの資料が体系立っておらず、読んだ者に混乱を与え、具体的な成果につながらない気がいたします。

ポイントになるべき「チーム・マイナス 6 %」の 6 つのアクションについてですが、1) の温度調節で減らそうは、6) の電気の使い方で減らそうの一部ではないですか。なぜ別の項目としてあげられているのですか。

2) の水道の使い方で減らそうは、水資源の浪費抑制という意味は分かりますが、CO2 排出削減とどう関連するのか分かりません。

Cool Biz、Warm Biz といった項目が挙げられておりますが、「チーム・マイナス 6 %」の 6 つのアクションには触れられておりません。なぜですか。

以上はほんの一例です。この資料の全体的な整合性のなさが混乱を与える大きな要因だと思います。

私は以下の提案をしたいと思います。

「チーム・マイナス 6 %」の 6 つのアクションを挙げるにしても内容を吟味した上で、重要なものから並べ、CO2 排出削減の具体的な数値目標を示すこと。

我々が日常的に使う電気、ガス、灯油、ガソリンなどを購入したときに、それが CO2 の排出量としていくらになるかを領収書に明記するように業者に義務づけること。これによって消費者が自分の日常の行動が炭素を軸とした相互関係を理解できるようになり、消費者の排出削減行動を促すことにつながると思います。

特に、電気の使用量に関しては、その家庭の前月の使用量がその地域の平均的な使用量と比べて、どのくらい多いのか少ないのかも請求書に明記するように電力会社に要請して、多い家庭には節電に配慮するよう注意を喚起するようにする。

以上、取り急ぎまとめました。参考にしていただければ幸いです。

及川武久